

W・H・オーデン

2 バーナビーの物語^{バラッド}

(チャック・ターナーに)

(ギターの伴奏で)

善良な皆の衆 お耳を拝借
昔の話といえども 気に入ることは大請け合い
それはバーナビーの物語
やつは当代随一と評判の軽業師

いずれの町でも大勢集め^{おおぜい} 5
見守る者たちの目を釘付けに
フランス流跳躍を シャンパーニュ式
メス式 ロレーヌ式で皆にご披露

瞳はブルー 身なりはさっぱり
女好きで 女にもてて 10
居酒屋で酒浸り サイコロ博打^{ばくち}
何年も 悪行また悪行の数々

ある日 たまたま自転車で
口笛吹き吹き 隣り町まで出かける途中
その頃よく目にした光景 15
二羽のカラスが絞首門

「バーナビーは」 と一羽のカラス
「やがて この首吊り男と同じ運命」
「そうさ」 ともう一羽「そして必ず
その日 やつは地獄行き」 20

良心の呵責を覚えたバーナビー
これまでの所行を後悔また後悔
「ああ 必ずや
邪悪な世界から足洗い 悔い改めようぞ」

重く静まり返った夕べの空気 25
丘の上の修道院にやって来たバーナビー

アンジェラスの鐘が鳴り お告げの祈りが始まった時
戸口をノックし 中に案内されたバーナビー

(合唱曲)

かかる場所の修道士らは いずれ劣らぬ秀才ぞろい
あらゆる学問 芸術に秀で 30
僧院長は 神の摂理に従った万物の定め場所を
論理明快に定義することができるのだった

モーリス修道士は 僧院長の申される言葉のすべてを
きちんと読み取れる 流れるような書体で書きとめ
アレクサンダー修道士は 35
聖書を 見事な出来栄えの挿絵で飾るのだった

そこにはまた ラテン語の続唱を
韻文でも散文でも 自在につくれる修道士らと
さらには 聖母マリアを讃える歌を
お国の言葉でうたう ピカルディ出身の修道士も居た 40

(合唱曲)

ところがバーナビーは 読み書きを習ったことはなく
「主の祈り」も「使徒信条」も知ってはいない
修道士らがみな熱心に働き 祈る姿を見て
バーナビーは 絶望的になっていった

ミサの時間に聖堂地下室に降りてゆき 45
悪事を働く者のように這いつくばって進んだ
祭壇の上の壁龕に
木彫りの聖母マリア像が置かれていた

「高きにましますマリア様」バーナビーは声を絞った
「わたしは 獣のように無知な男 50
跳び跳ねることしか出来ません
マリア様 あなたに宙返りをお目にかけてます」

すぐさま胴着を脱ぎ捨てて
宙返りを始めたのだった
マリア様を崇めるあまり 55
今までで一番高く跳び跳ねた

(バレエ曲)

フランス流跳躍を シャンパーニュ式
メス式 ロレーヌ式で
力の限りやり尽し ついに地面に倒れました
体中の汗が吹き出て 気を失ったのでした 60

バーナビーが気付かぬうちに 聖母アリアが
壁龕へきがんから降りてきて バーナビーの額の汗を拭かれます
「ありがとう バーナビー」 マリアはそう言って微笑みました
「わたしのために 見事な跳躍でしたね」

それ以降 祈りの時間のたびごとに 65
バーナビーはマリア様に挨拶に降りてゆきました
ある修道士がそれに気付いて 「いったい何処に
祈りの時間のたびごとに バーナビーは出かけてゆくのか」

そこで次の日 バーナビーがこっそりと姿を消すと
修道士は バーナビーのあとをつけて地下室に降りてゆきました 70
バーナビーが神の母をあがめる姿を目撃して
修道士は考えました 「世にも不思議な光景だ

「何も問題は無いかも知れない きっとそうだ
しかし 僧院長様にはお知らせすべきであろう」
修道士は院長様のところに行って 75
うやうや 恭しく 見た通りのことを報告しました

院長様は申されました 「よいか そなたが見聞きしたことを
決してほかの者たちに言ってはならない
私も明日 あした そなたと一緒にこの目で確かめ
その上で どう計らうかを決めましょう」 80

翌日 柱の陰から
院長様は バーナビーの行いをつぶさにご覧になりました
跳んだり跳ねたり宙返りする様に
「この男は信心深く慎ましい」 と思われました

(バレエ曲)

「マリア様」とバーナビーは懇願しました 85

「どうか あなたの御子イエス・キリスト様にお執り成しを」
こう言うと もうひと跳びして床に倒れ
そのまま動かなくなりました 心臓が止まったのです

すると 石炭のように真っ黒な悪魔たちが歯をむき出して
バーナビーの魂を捕まえようと 地獄から一斉にやってきました 90
「やつがどんなに敬虔ぶって騒いでも無駄なこと
軽業師は一人残らず悪魔の仲間さ」

(バレエ曲)

しかし 聖母マリアとお供の天使たちが悪魔を寄せ付けず
輝く剣を振って 追い払われました
そうして バーナビーの魂を高く掲げて 95
美しく優しい歌声とともに 天国に運ばれたのです

コーラス： グロリア・イン・エクセルシス・デオ
(「いと高きところにまします神に栄光あれ」の賛歌)

(山中光義訳)